

令和 7 年度

「運営に関する計画」
中間評価



大阪市立東中浜小学校

令和 7 年 10 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

生活指導面では、授業中と休憩時間の区別をつけた行動ができるなど、落ち着いた雰囲気で、ほとんどの児童が学校生活を過ごしている。

また、日々の教育活動の中では、児童間トラブルの早期発見、早期解決、保護者との連携を大切にしながら丁寧に進めた。その結果、児童間トラブル解決 100%はほぼ達成できている。しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに、自信をもって「思う」と答えられる児童の割合は 77.5%と低く、今後に課題を残した。

社会見学や出前授業、児童会活動などの体験的・主体的な活動を積極的に実施し、自己肯定感や自己有用感の育成を図っており効果を上げている。

しかし、不登校や行き渋りの児童が増加しており、その対応では、原因が特定できない場合や保護者の価値観の多様化により、解決に時間がかかる事案が増えてきており、学級担任の負担の一因ともなっている。今後チーム学校での対応、こどもサポートネットの活用など、積極的に進めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学習面では、昨年度より研究主題を「『主体的・対話的で深い学び』を支える I C T 活用」とし、I C T 機器の授業での効果的な活用について全教員で研究を進めている。結果、一人一台端末を活用した授業の進め方・話し合い活動の充実などの授業力は大きく進展し、教員の I C T 機器の活用力は飛躍的に伸びている。また、メンター研修を積極的に実施、若手教員の授業力・指導力の向上につなげた。

経年調査の結果等では、経年で比較して学力面で向上した学年が多かった。これは学校全体が落ち着いた雰囲気の中で日々の授業が展開できており、学習にまじめに取り組む児童、それを導く教員・サポーターの頑張り、地域ボランティアを活用した読書活動の充実などが要因と考えられる。また、学期に一度の「100マス計算デー」の実施や、「親子で学ぼう」の企画を実施し、児童に対しては基礎学力向上や学習の励みにつなげ、保護者に対しては家庭学習の啓発活動を進めた。

運動面では、「運動やスポーツが好き」な児童の割合は 65.5%と決して高くないが、教員向けシナプソロジー研修を実施し授業等で積極的に活用を図るとともに、げんキッズ週間・縄跳び週間・かけあし週間の設定など、多数の運動に関する動画作成による一人一台端末での視聴など、運動が好きになるよう児童への啓発活動に力を入れている。

健康面では、手洗い・うがいの習慣は定着してきており、感染症の予防に役立った。

【学びを支える教育環境の充実】

児童の一人一台端末の活用については、教員の I C T 機器活用力の向上とともに、大きく伸びており、授業や行事等での調べ学習やプレゼン、写真・動画・様々な学習コンテンツの利用、家庭と教室を結んだ授業のオンライン配信、学級休業時の活用など、活用の機会は益々増加している。

教職員の働き方改革については、校務分掌の見直し、行事・取り組みの精選、事務作業の効率化などを進めているが、教職員の長時間勤務の改善は不十分である。教職員の抱える業務は、授業研究、一人一台端末の活用、学級経営、個に応じた対応、保護者対応、各種調査や研修など年々増大しており、教職員の負担感はピークに達している。今後も前例にとらわれない思い切った改革を進めていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を1%以下に減少させる。

令和7年度の学校アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」の項目で最も肯定的な「そう思う」の割合を80%以上に向上させる。

令和7年度の学校アンケートで「先生や友だちにあいさつができますか」の項目で、最も肯定的な「そう思う」の割合を90%以上に向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和7年度の小学校学力経年調査における全学年の国語・算数の平均正答率の対全国比を1.03以上に向上させる。

令和7年度の学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。

令和7年度の学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

令和7年度の学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の52%以上にする。

令和7年度の学力経年調査における「正しいキーワードを入力して、知りたいことをインターネットで調べることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

ゆとりの日を週に1回設定し実施する。

令和7年度末までに年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小学校)

- ◇小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
[前年度 77.5%]
- ◇小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78.5%以上にする。
[前年度 78.4%]

学校の年度目標

- ◇年度末の学校アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。
[前年度 77.5%]
- ◇年度末の学校アンケートにおいて「先生や友だちにあいさつができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。
[前年度 90.0%]

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(小学校)

- ◇小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
[前年度 4年 1.02、5年 1.04、6年 0.97]
- ◇小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度より向上させる。
[前年度 27.7%]
- ◇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を69%以上にする。
[前年度 65.5%]

学校の年度目標

- ◇年度末のキラピカ週間の調査で「ハンカチ、ティッシュの携帯」に、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。
[前年度 ——%]

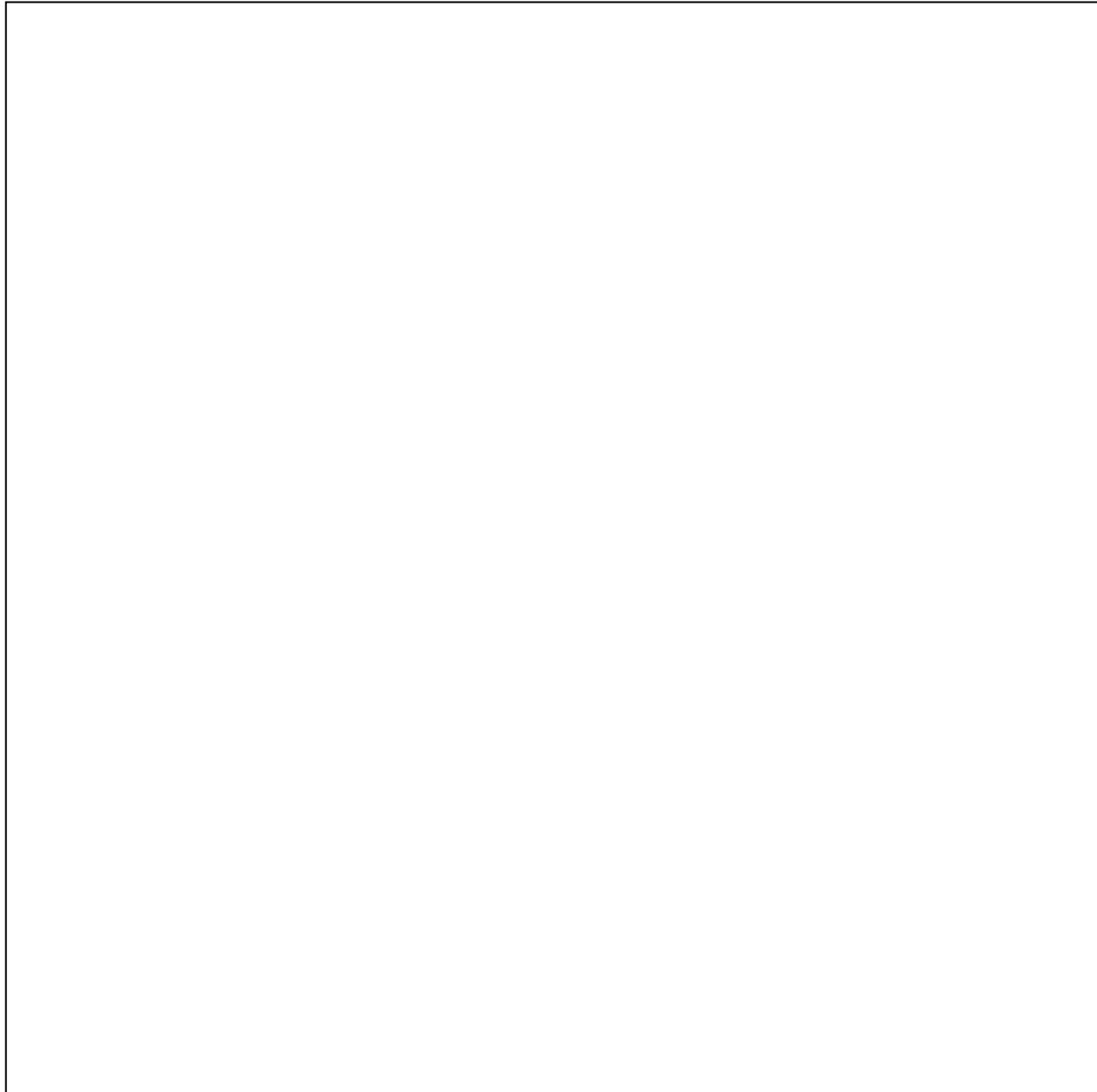
【学びを支える教育環境の充実】

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小学校)

- ◇授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を、昨年度より増加させる。ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。
[前年度 52.0%]
- ◇第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(1か月の平均時間外勤務が45時間を超えない)を満たす教職員の割合を前年度以上にする。
[前年度 58.3%]

3 本年度の自己評価結果の総括



大阪市立東中浜小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
------	------

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小学校)

- ◇小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 [前年度 77.5%]
- ◇小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78.5%以上にする。 [前年度 78.4%]

B

学校の年度目標

- ◇年度末の学校アンケートにおいて「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。 [前年度 77.5%]
- ◇年度末の学校アンケートで、「先生や友だちにあいさつができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。 [前年度 90.0%]

B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>◇学期に一回いじめアンケートを実施し、その結果を生活指導連絡会や職員会議後の児童理解研修会などの児童の実態を把握できる場で、全教職員で共通理解を図る。また、少なくとも学期に一回はいじめ根絶のために、いじめ対策や自己肯定感を高める内容の道徳の授業を全学級で取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>◇小学校学力経年調査において、①「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」、②「学校に行くのは楽しいですか」に対して、①最も肯定的な「思う」と答える児童の割合を85%以上、②肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。 [前年度 ①77.5% ②78.4%]</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>◇学校・保護者・地域との連携を密にするとともに、区役所・警察等の学校内外の専門的な機関とも連携を密にして安全・安心な学校の構築を目指す。</p>	B
<p>指標</p> <p>◇年間3回の避難訓練（火災、地震・津波、不審者）を実施するとともに、引き渡し訓練（風水害）を実施する。また、年度末に児童へアンケートを行い、「避難の仕方が分かりましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。 [前年度 2回の実施と引き渡し訓練] [前年度 ——%]</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>◇社会見学や出前授業などの体験的な活動を積極的に行い、社会の仕組みを学んだり、様々な人と出会ったりすることにより、社会や人の役に立とうとする心を育む。また、道徳や学級活動の時間などを中心に、児童の自己肯定感を育む取り組みとして、学期に一回程度、いいことみつけを実施し、身近にある人権に関することに関心をもてるようとする。</p>	B
--	----------

<p>指標</p> <p>◇年度末の学校アンケートにおいて、「自分にはいいところがある」の項目に肯定的に答える児童の割合を、前年度より向上させる。 [前年度 77.5%]</p>	
---	--

<p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>◇児童会活動や様々な取り組みを通して、児童にあいさつをするよう意識させ、校内や校外で出会った人にあいさつできるようにする。年に2回、児童会であいさつ運動に取り組み、より積極的にあいさつできるようにする。</p>	B
---	----------

<p>指標</p> <p>◇年度末の学校アンケートにおいて、「先生や友だちにあいさつができますか」の項目に肯定的に答える児童の割合を、前年度より向上させる。 [前年度 90.0%]</p>	
--	--

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 学期に一回アンケートを実施したり、その直前に道徳（いじめについて）の学習を行ったりすることで「いじめはいけないこと」という意識が高まっている。また、連絡会や職員会議後に共通理解を図ことができている。</p> <p>② 専門機関と連携を図って、避難訓練を計画的に行なうことができている。引き渡し訓練を伴った実施となつたが、保護者は多数参加していただけた。</p> <p>③ 各学年で社会見学や出前授業などの体験的な学習活動を計画的に行なっている。また、道徳や学級活動を通して、児童の自己肯定感を高める取り組みを行なっている。</p> <p>④ 児童会であいさつ運動に取り組み、大きな声で積極的にあいさつできている児童が多くみられた。集会で表彰を行うことで、児童の意欲向上につながっている。</p>	
---	--

<p>次年度への改善点</p> <p>① 「いじめはいけないこと」という共通理解のもと、指導していく必要がある。指導において児童が抱え込むことなく複数で行なうようにする。</p> <p>② 「教室からの避難」だけでなく計画的にいろいろなケースをしてもいいのではないか。また、実際にベルを使った訓練があつてもいいと思う。（告知なし等も検討）</p> <p>③ いいこと見つけを行うことを周知し、各クラスで計画的に行なえるような仕組み作りを学校全体で整える必要がある。</p> <p>④ あいさつ運動の期間はあいさつができる児童が多いが、期間以外ではあいさつができる児童は多くないので、児童が主体的にあいさつを続けられるように児童朝会や放送等であいさつについて啓発していくことが必要。</p>	
--	--

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>◇小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。〔前年度 4 年 1.02、5 年 1.04、6 年 0.97〕</p> <p>◇小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度より向上させる。〔前年度 27.7%〕</p> <p>◇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 69%以上にする。〔前年度 65.5%〕</p> <p>学校の年度目標</p> <p>◇年度末のキラピカ週間の調査で「ハンカチ、ティッシュの携帯」に、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。〔前年度 ——%〕</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◇学力向上に効果的な授業実践や I C T の活用方法について、教職員間で情報共有を図る。また、話し合い活動を積極的に取り組む児童を育てる。</p> <p>指標</p> <p>◇低・中・高学年それぞれ 1 本ずつの研究授業と、全教員が公開授業に取り組む。長期休業中（夏季休業・冬季休業など）に、教職員の授業力向上のための研修を実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◇児童の基礎的・基本的な学力の定着を図るために、学校全体で取り組む。また、家庭学習の啓発に努める。</p> <p>指標</p> <p>◇学校全体で基礎的・基本的な学力の定着を図るための施策に年 1 回以上取り組む。また家庭への家庭学習の啓発のための施策を年 1 回以上取り組む。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>◇なわとび週間やげんキッズ週間を実施し、体を動かすためのきっかけづくりの場を設け、運動する習慣をつける。運動委員会や体力向上推進員会で、教室でも体を動かせるようなストレッチやシナプソロジーの動画をつくり、毎日元気に過ごすことができるよう啓発する。</p> <p>指標</p> <p>◇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 69%以上にする。〔前年度 65.5%〕</p>	B

取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】

◇健康や体力を保持増進する力を育成するために、キラピカ週間の取組みを行い、手洗いの大切さ、ハンカチ・ティッシュの携帯を意識づけ、健康で清潔な生活への意識を高める。

指標

◇年度末のキラピカ週間の調査で、ハンカチ・ティッシュの携帯率を 80%以上にする。
[前年度 ——%]

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①計画通り ICT を活用した研究授業を進めている。特に Canva を取り入れた学習に取り組めている。また ICT 活用に関わった研修も進めている。家庭学習においても、音読学習など ICT 活用に努めている。その結果、ICT を積極的に活用し、どの学年の児童においても活用技術が向上している。また教職員の ICT スキル向上においても有効的な学びになっている。
- ②漢字学習への意欲を高めるために、全校児童で学期の漢字学習を取り組んでいる。また、家庭への家庭学習の啓発のため、夏季休業中に親子で漢字学習に取り組む施策を実施し、多くの家庭で取り組んでもらうことができた。
- ③げんキッズ週間を実施したことで、普段外で遊ばない児童も積極的に外に出て運動することができた。雨や猛暑で外に出ることができない時は、教室でシナプソロジー等の動画を見て、体を動かすことができた。
- ④キラピカ週間を通して、毎日ハンカチやティッシュを携帯する児童が増えた。また、体育の後や休み時間の様子を見ると手洗いの習慣が身についている児童が多かった。

次年度への改善点

- ① 継続していく。ICT 活用だけでなく、学力向上に効果的な授業実践についても議論を始める。
- ② 継続していく。本校のその他の課題に対しても、学力向上に努める。今後、効果についても検証していく。
- ③ 暑さで外に出ることが難しい期間が長くなっているため、げんキッズ週間の時期をずらしたり、休憩時間に講堂や多目的室等を開放したりする。
- ④ ハンカチ、ティッシュには関しては意識が向上してきたが、ナプキンやマスク等給食時にも意識を持てるようにすればさらによい。手洗いの仕方が不十分で、本来の効果が得られない児童もいるため、正しい手洗いの仕方について周知する。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>◇授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を、昨年度より増加させる。ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。 [前年度 52.0%]</p> <p>◇第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(1か月の平均時間外勤務が45時間を超えない)を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 [前年度 58.3%]</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>◇スクールライフノートの「心の天気」の入力や、連絡帳機能の活用など、各学年の実態に応じて、日常的にICT機器に触れる機会を設ける。また、教科書記載のQRコードから読み取れるコンテンツやデジタルドリル、調べ学習等、児童が学習者用端末を学習に活用する場面を設け、活用していく中で、個別の学びや協働的な学びの実現ができるようとする。</p>	B
<p>指標</p> <p>◇授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を、昨年度より増加させる。ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。 [前年度 52.0%]</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>◇学年等の小グループで意見をまとめ、本会議 職員会議でのスムーズな議事運営を図るなど、事前検討に時間を割き少人数での周知や検討を行う事により、会議時間の圧縮や活発な意見交換を目指す。</p>	B
<p>指標</p> <p>◇第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(1か月の平均時間外勤務が45時間を超えない)を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 [前年度 58.3%]</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①各学年、「心の天気」の入力や授業内での活用など、実態に応じて日常的にICT機器に触れる機会を設けている。スクールライフノート利用状況は、2~6年で60%を超えている(1年生は1学期、端末の配備がなかったため)。授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の割合は、5~7月で90.7%と、前年度を大きく上回っている。</p> <p>②少人数での意見交換が事前にでき、本会議の時間は、やや短くなった。部会や推進委員会も整理され、負担は少し軽減されたが、まだまだ偏りがあり、担当者の努力や工夫の上に成り立っている。指標は、現時点の累計で77.8%であり、継続していくことで、前年度の割合を上回ることができると考える。</p>	

次年度への改善点

- ①各学年、端末の活用はできているが、活用内容については学年による差が大きい。活用方法を交流したり、教員の研修を行ったりすることを検討する。端末やネット環境の不具合は依然として多く、活用に支障が出ている。また、教員が使用する機器に関しても、経年劣化で使えないものもでてきていたため、計画的な買い替えが必要。
- ②部会や推進委員会の内容を共有する時間を持てないまま、本会議に入ってしまうことがあるため、共有方法の検討を進める必要がある。職員朝会と SKIP の内容の重複もあるので、全員が SKIP の掲示板を見るようにすれば、職員朝会は短縮できる。前倒しになっているだけで、業務量はあまり減っていないようであるので、業務の割り振りなどを見直していく必要がある。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東中浜小学校 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 最重要目標ごとの評価

最重要目標 1 安全・安心な教育の推進

--

最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上

--

最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実

--

3 今後の学校園の運営についての意見

--